

より大塔寺通正

号盆お四年和令

塔婆について

法事の時、施餓鬼の時に塔婆を書いてお墓に持って行き立てます。この塔婆は本来は釈迦の肉体を大地の徳・水の徳・火の徳・風の徳・空間の徳に表して五輪としたものです。これはお寺の塔や五輪のお墓と同じ考えです。この塔を生身の釈迦として生きていますがごとく、礼拝するのです。

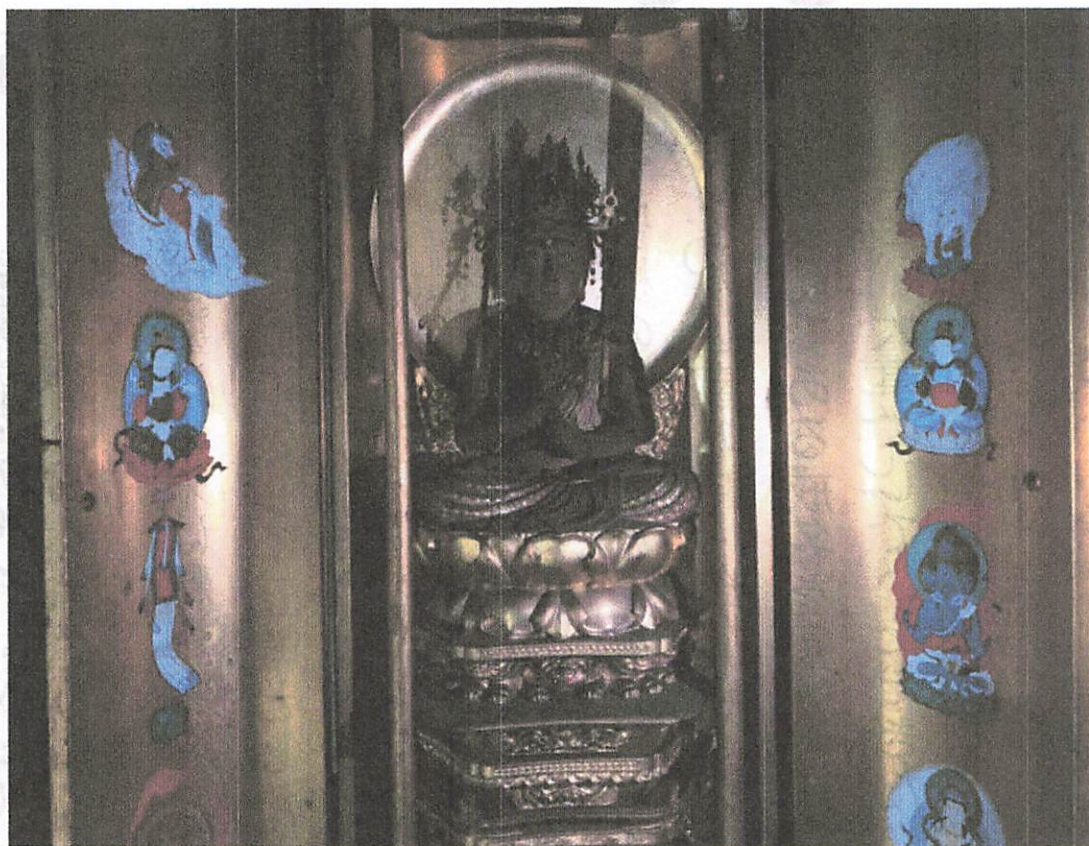
真言宗では我々一人一人は本質的に如来であると考えます。よって皆様のお家のご先祖一人一人も釈迦に等しいのです。よって法事などの仏事の時、地・水・火・風・空という意味の梵字の下に仏門の名前である戒名を書いて礼拝するのです。この意味を知っていたき、大事にしていただきたいと思います。



正通寺本堂前に立つ
先代祐宣阿闍梨二十三回忌の塔婆

紹介 正通寺の仏

大日如来



現在は本堂外陣にお祀りしています。
真言宗はこの大日如来の説法である
「大日経」に依って教義が成り立って
います。

弘法大師はこの大日経を学びに唐に渡
られたのです。この意味で大日如来は
真言宗の本尊であるといえます。
皆様のおうちの仏壇の真ん中に安置さ
れている仏像や掛け軸は大日如来で
す。十三仏の掛け軸でもほぼ中央に画
かれています。この仏は別名「遍照金
剛」といいます。すなわち弘法大師も
大日如来と本質は同じ、だから「南無
大師遍照金剛」と称えるのです。